

連珠っておもしろい

九段 河村典彦

● 第87回 ●

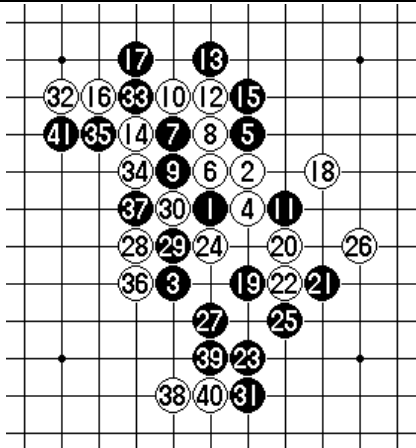
■ 満を持しての優勝

今年も9月にA級リーグが開催された。残念ながら今年はお出場でできなかったが一ファンとして楽しんで見ることができた。結果は中山君が全勝優勝。これまで僅差で優勝できなかった鬱憤を晴らし、まさに「満を持しての優勝」と言えるだろう。中村名人としても、今年はお断りできないだろう。挑戦手合いも楽しみたい。さて、中山君が打った棋譜を中心に何局か気になったものを見ていこう。まずは、1回戦から。

示黒 中山 白 松浦
黒41にて白投了

名月でスタートしたが、昔なら白4に対し黒5は考えられない着手だった。桂馬の珠型にも再度光が当て

られるのが四珠交替のメリットだろう。



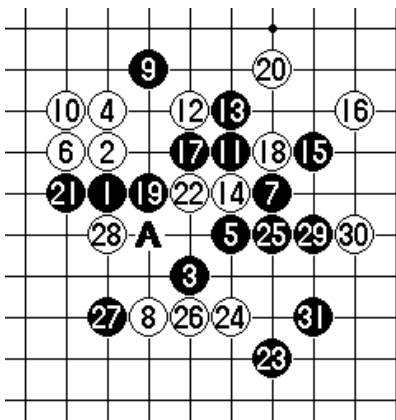
白6は当然と思うが、黒7を打たれると迷う。白としてはこれは有利(まだは行かなくても混戦になる)と思っっているの、何とか有利な順を探そうとするが、それがそもそも間違いかもしれない。攻める手が白16に現れているが、黒17と打たれてしまったと思っただろう。結局、黒3の石が活躍する結果となってしまった。

こういう展開を考えての黒7だと思っが、こうなる

と白で勝つのは容易ではない。四珠交替打ちの黎明期では、こういう展開が増えると思っ。

続いて2回戦、面白い局が現れた。

黒・中山 示白・飯尾
黒31にて白投了

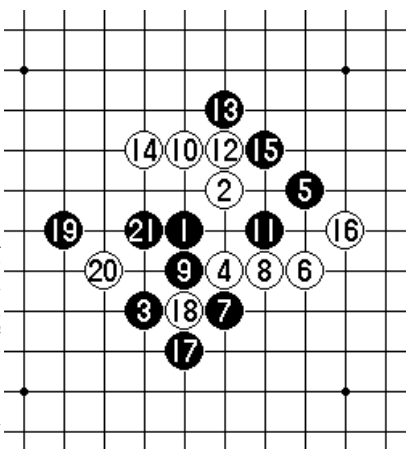


前号でも紹介した、遊星白4が登場した。黒5の候補は七題である。初見では絶対打てないだろうが、飯尾さんも流行に敏感なので受けて立つ！思っだっただろう。黒15の四ノビが世界戦とは違っところで、黒19と乗り込んでは黒がやや有

利かと思っ。黒23！の手に白24が惑わされた。白24ではAの方が良かっただろう。最後の白30も反対止めで粘ってほしかった。

続いて3回戦、結果的に優勝決定戦となつた、神谷君との対戦である。

示黒・中山 白・神谷
黒21にて白投了



名月白4は世界戦でも多く打たれたので、この二人には研究済みであろう。それにしても、黒5！とは何という発想だろうか。これは白にここに打たれる一手を予め防いだ手なのだが、白

にはそれを上回る攻めがなく、ここを止めれば黒3までの形が生きる、という急がば回れの考え方なのだろう。当然、白は6と攻めるのだが、黒7、9と今度はこちらから受けて大丈夫という判断だ。

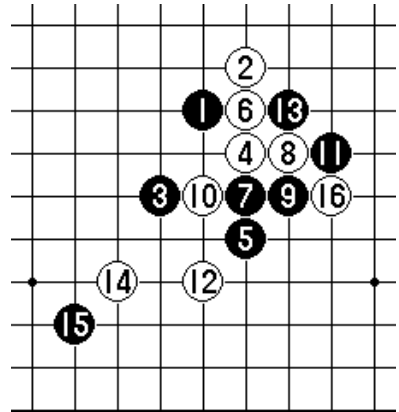
しかし、こうして見ると黒5が急所に来ており、その他の黒はすべて攻めに役立つているので、被告の立場は白の方だろう。

ここで白10と三々を狙うの攻めに向かったのが、悪い判断だった。痺れを切らしてしまったのだろうが、そんな簡単に勝てるほど甘くはない。白12で勝ったように見えるが、黒13と押さえられると二の矢がない。白14、16と開き直ったが、黒17から19が妙手段で、短手数での決着となった。

強い人は逆の立場でも勝てる。5回戦での佐藤戦を見ていただこう。

黒…佐藤 示白…中山

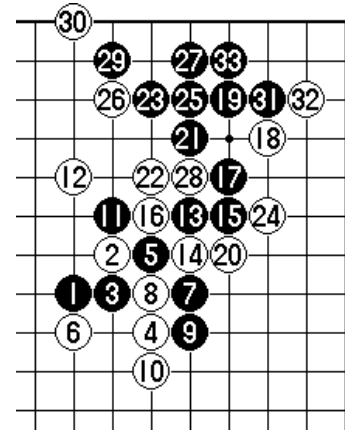
白16にて黒投了



これまで黒番で見事な勝利を収めていたが、白番ではどうなのだろうか？佐藤七段も黒5は直感で打ったのだと思うが、これも読み筋通りとばかりに白6、8と防いでいる。これに対し、黒9がまずかっただろう。白10では16とノラれることを想像したかもしれないが、単純に白10と止められ困った。黒13と止めるようではもうおかし。白14と打たれて簡単に土俵を割ってしまった。

次は7回戦、最後の一番である。

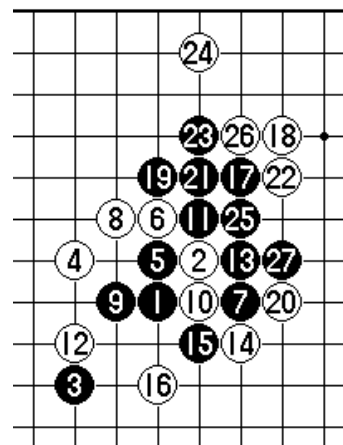
黒…中山 示白…岡部
黒33にて白投了



岡部君はここまで1敗だったので、これに勝てば並んでいたところだった。雲月白4から6は混戦志向だが、白10は勝負手だった。ただ、結果的には勝負をするのが早すぎた。黒11から追い詰めだったからである。黒19の時に中止めできないのが辛い。黒23にも白24が絶対で、ちょうどびったり盤端まで足りている。これで負けたら仕方がないだろう。それだけ中山君の打ち方が完璧だったということである。

では、最後にA級で気にな

なった局を紹介しておこう。
示黒…河野 白…玉田
黒27にて白投了



注目していた彗星はこの一局だけだった。最後の9回戦になっていくが、実は河野君が都合で最終局を打てないので、集合日の夜に打ったものである。したがって、開幕局に登場したことになる。

黒5は連珠世界に書いた私の「彗星ガイド」にも載っていない一手で、見るからに混戦である。しかし、黒7と受けて悪くもない。白14では上辺から受けておく所だろうか。黒27まで黒勝ちとなった。